

大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構

【N089 高エネルギー加速器研究機構】

	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	素粒子原子核研究所（総合研究大学院大学高エネルギー加速器科学研究科素粒子原子核専攻（D：4）） 物質構造科学研究所（総合研究大学院大学高エネルギー加速器研究科物質構造科学専攻（D：3）） 加速器研究施設（総合研究大学院大学高エネルギー加速器研究科加速器科学専攻（D：2）） 共通基盤研究施設 大強度陽子加速器施設（J-PARC）
沿 革	昭和46(1971)年 高エネルギー物理学研究所設立 平成9(1997)年 東京大学原子核研究所及び中間子科学研究センターと合併し、高エネルギー加速器研究機構及び田無分室を設置(改組) 平成11(1999)年 田無分室がつくばに移転 平成16(2004)年 大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構設立 平成21(2009)年 大強度陽子加速器施設（J-PARC）完成
設置目的等	○大学共同利用機関及び大学共同利用機関法人の設立経緯 我が国では、特定分野の研究を行うことを目的とする研究所は、従来、特定大学に附置する形で設置されてきたが、学術研究の発展に伴い、個々の大学の枠を越え、全国の大学から研究者が集って、大規模な施設設備等を共同で利用し、効果的な共同研究を進める組織が求められるようになった。そのため、昭和46年に初めて、特定大学に附置しない大学の共同利用の機関として、高エネルギー物理学研究所が設置された。以後、種々の学術分野の要請に基づき順次拡大され、各々の分野において高度な学術研究を進める我が国の中核的な研究拠点として発展。平成16年度の国立大学法人化の際、大学共同利用機関法人4機構に再編され、上記に加え、各機構における共同研究等を通じ、時代が要請する新たな学問分野創出への戦略的な取組等を実施。（4機構17大学共同利用機関(平成25年度現在)） ○大学共同利用機関法人とは 我が国の学術研究の向上と均衡ある発展を図るため、大学共同利用機関を設置することを目的として、国立大学法人法に基づき設立された法人。

○大学共同利用機関とは

- ・大規模な施設・設備や大量の学術情報・データ等を、個々の大学の枠を越え、全国の大学等の研究者の共同利用に供し、効果的な共同研究を進めるための組織。
- ・研究者コミュニティの意見を反映した運営により、研究者の自由な発想を源泉とする学術研究を推進。

<主な機能>

- 大型施設・設備の提供、学術資料（情報）の収集・保存・提供、学術情報流通基盤の整備、共同利用・共同研究の場の提供
- ・大学院学生の受入れを行うなど、研究と教育を一体的に実施し、人材養成に貢献。

○法令上の規定

（国立大学法人法 別表第二（第二条関係））

【高エネルギー加速器研究機構】

高エネルギー加速器による素粒子、原子核並びに物質の構造及び機能に関する研究並びに高エネルギー加速器の性能の向上を図るための研究

※加速器に関連する広範な分野における最先端加速器技術の開発研究を行うことを目的に加速器研究施設を設置。

※機構における実験・研究への高度な技術支援並びにそれら技術の開発研究を行うことを目的に共通基盤研究施設を設置。

※素粒子・原子核物理、物質科学、生命科学など幅広い分野の最先端研究を行うことを目的に（独）日本原子力研究開発機構と共同で大強度陽子加速器施設（J-PARC）を設置。

（国立大学法人法施行規則 別表第一（第一条関係））

【素粒子原子核研究所】

高エネルギー加速器による素粒子及び原子核に関する実験的研究並びにこれに関連する理論的研究

【物質構造科学研究所】

高エネルギー加速器による物質の構造及び機能に関する実験的研究並びにこれに関連する理論的研究

強みや特色、
社会的な役割

高エネルギー加速器研究機構は、自然界に働く法則や物質の基本構造の探求と多彩な機能の起源解明を通して人類の知的資産の拡大に貢献する加速器科学の国際的拠点である。素粒子原子核研究所、物質構造科学研究所、加速器研究施設、共通基盤研究施設の有機的連携のもと、世界最高性能の加速器と実験装置を設計・建設・運転することで、実験的、理論的研究に従事する素粒子、原子核、物質・生命科学の広範な分野の国内外の研究者に最先端の研究の場を提供し、加速器科学における多様な国内、国際共同研究を先導することにより、教育、研究、社会貢献への取り組みを行ってきたところであり、以下の強みや特色、社会的役割を有している。

- 加速器科学の国際的な拠点として広範な分野で最先端の研究の場を提供していることを生かし、高い専門性と広い視野並びに国際的通用性を持つ若手研究者を育成する。基盤機関として総合研究大学院大学と緊密な関係・協力を進めることにより、また、連携大学院、特別共同利用研究員制度を通じて大学院教育に協力することで、加速器科学関連分野の高度な研究能力を有する博士研究者育成の役割を果たす。更に、所属大学の教員とは相補的な専門性を生かし、大学共同利用等を通して大学教員、ポスドク、大学院生の人材育成に資する。

※総合研究大学院大学個票参照

- 総合研究大学院大学と協力し、総合研究大学院大学の教育改革を推進するとともに、オムニバス講義実施等により、総合研究大学院大学、連携大学院、特別共同利用研究員制度により受入れた大学院生で共有することができる、教育環境の整備を行う。

※総合研究大学院大学個票参照

- 日本原子力研究開発機構との共同事業である J-PARC プロジェクトを含めた、素粒子・原子核、物質・生命科学、加速器及び関連する基盤技術の研究分野において、大型加速器科学の世界を先導する国際拠点として、国際頭脳循環の核となる研究環境と研究支援組織を整備する。また、全国大学共同利用拠点として国内大学との双方向の組織的連携を構築し、関連研究分野コミュニティのまとめ役としての窓口機能を充実させ、機構内外の連携を強めることにより新プロジェクト実現、新領域の創生に向けた取り組みを促進し、世界トップクラスの研究を推進する。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">○ 大学共同利用、共同研究、施設利用やTIA-nano（つくばイノベーションリーナテクノロジー拠点）、先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業等を介して、機構の有する先端機器を広く活用できる体制整備を進めるとともに、産業界との積極的な連携により、人材を育成、新たな研究成果を創出し、実社会に役立てる。また、多様な方法・手段を用いて、社会還元を進める観点からアウトリーチ活動を推進する。
○ 公開講座等を通じ、最先端の研究成果を提供することにより社会人の学び直しの機会を提供する。
※総合研究大学院大学個票参照
○ 国際セミナー、国際スクール、高校生向けサイエンスキャンプ、理系女子キャンプ、大学生向けサマーチャレンジ、KEKキャラバンによる出前授業などを開催し、理科系の人材育成に資するとともに、一般公開、施設公開（J-PARC）等を通して国民へ認知度の向上を目指した活動を推進する。 |
|--|---|